

小学校
4年／国語

電話や電子メールで伝え合おう

～「みやぎの情報モラル総合サイト」の国語科での活用～
実践者 岩沼市立岩沼西小学校 黒川 長寛

1. 学習の概要

単元名

電話や電子メールで伝え合おう (本時4/4)

単元の目標

情報の受け手の状況や感じ方を考え、適切な表現で情報発信する大切さに気付く。

本時の学習

学習活動

1. 電話で伝え合う際の留意点について確認する。(前時までの振り返り)
2. 本時の学習課題とアンケートで明らかになった学級における携帯電話の利用状況を知る。
3. 電子メールで気持ちをうまく伝えられなかった例について話し合う。
4. 電子メールで伝え合う際の留意点を話し合う。
5. ワークシートで、電子メールのやり取りを疑似体験する。

本時活用機器・コンテンツ

- ・大型テレビ (50型)
- ・実物投影機
- ・「みやぎの情報モラル総合サイト」指導パッケージ
- ・コンピュータ

補助資料等

- ・ワークシート「えんぴつメール」



指導上の留意点

- 相手の姿が見えず、音声だけで伝え合うことの難しさを想起させる。
- 本学級の約1/3の児童が携帯電話でメールを利用していることを知らせ、必要感をもたせる。
- 「みやぎの情報モラル総合サイト」の指導パッケージを活用し、問題点について話し合う。
- 児童の考えから、電話との相違点を明らかにする。
- 携帯電話の画面を模したワークシートで筆談を行う。



2. 学習のポイント

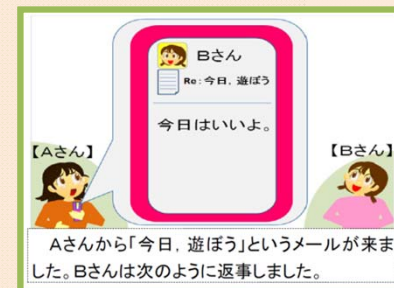
・情報モラル教育の視点

前時までに学んだ電話で伝え合う際の留意点を、電子メールにも応用できるように本単元を設定した。児童は、電子メールをやり取りする際に大切なことは何かを話し合うことで、相手の状況や感じ方を考えながら情報発信する大切さに気付くことができた。



・「みやぎの情報モラル総合サイト」の活用

このサイトで提供されている「指導パッケージ」は、さまざまな教科で活用できる教材が豊富に用意されている。本時では、電子メールで気持ちをうまく伝えられなかった例を示す教材を活用し、児童の活発な意見交流を促すことができた。



・実物投影機の効果的な活用

「みやぎの情報モラル総合サイト」の提示資料や児童が筆談で記入したワークシート「えんぴつメール」を実物投影機を使って大型テレビに拡大提示した。教師の説明や指示を正確に伝えることができ、話し合う際の観点を示すために有効であった。



3. 参観者の声

- ・本時で活用していた「みやぎの情報モラル総合サイト」の教材に児童が高い関心を示していた。さまざまな教科で活用できる教材が用意されているとのことなので、ぜひ今後活用してみたい。
- ・本学級児童38名のうち、11名が携帯電話でメールのやり取りをしたことがあるという実態を知り、情報モラルの視点を取り入れた授業の必要性を感じた。
- ・実物投影機と大型テレビの組み合わせは手軽で効果が大きいと改めて感じた。一層の活用を図りたい。

